

令和7年度 第1回 学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会

(協議概要)

1 日 時 令和7年6月30日(月) 14:00～

2 会 場 和歌山県民文化会館 6F 特別会議室 B



3 協議内容

- (1) 令和7年度における学校部活動の地域連携・地域移行の進捗について
- (2) 令和7年度学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会の進め方について

4 委員による主な意見と事務局の説明(○=委員 ●=事務局)

(1) 令和7年度における学校部活動の地域連携・地域移行の進捗について

- バレーボールの場合は、小学校でバレーボールをやっている子が中学生になって地域クラブに進む場合とそうでない場合がある。地域クラブに入らない理由には、「競技力の高い子が多く、試合に出られない」、「お金をかけてまでやりたくない」というものもある。地域に移行するのはいいが、地域クラブに入れない、入らない子をどうするのが課題である。
- 受益者負担と公的負担のバランスについて、スポーツ少年団で活動する児童には補助金があるが、それでも受益者負担は0ではない。いくら中学校の部活動を地域に展開すると言っても、それも受益者負担が0という訳にはいかないだろう。補助金のような公的な支援はずっと続くものではないことが多いので、補助金を活用していない自治体もある。
- 今後、公的負担はどのような形が考えられるのか
- 受益者負担と公的負担のバランスについて、国から水準等が示されると聞いている。国が示す受益者負担の水準を踏まえ、活動に係る経費のうちどの程度の費用が不足し、その不足分をどのように補うのかということを考えていく必要がある。
- 「経済的に困窮する世帯の生徒への支援」は公的負担に含まれているのか
- 家庭の経済格差が生徒の体験格差につながらないようにすることは、国も注意すべきと示している。公的負担と経済的に困窮する世帯の生徒への支援については一体的に考えるべきか、分けて考えるべきか、国の動向を注視しながら研究していく必要がある。
- 指導者の問題について、指導者にはファーストジョブがあるため、19時～21時、土日などしか実施できない状況がある。
- 地域クラブとして活動しているつもりだが、位置づけが曖昧で、自治体から認

定されている活動なのか、実施者も分からないことがある。

- 県中体連主催の大会は、生徒の費用負担なしで行うことを基本としており、大会運営等は教員を中心に行うが、指導と運営を兼ねるので教員への負担が大きい。引率教員だけでは人手不足となり、生徒引率のない教員が大会役員として運営に携わることもある。しかし、学校からの旅費支給が認められない場合もある。昨今は暑熱対策の必要性も高まり、大会運営に係る経費が高騰しており、資金繰りが大変である。中体連としては、各市町村に運営資金の協力を依頼して、分担金という形で補填している。
- 吹奏楽では、コンクール等は中学校だけでの運営は不可能。引率及び指導するのが精いっぱいである。そのため、高校教員や一般の方々が運営を手伝ってくれる。その代わり、高校や一般のコンクールには中学校教員も手伝うが、旅費等は連盟が負担するようになっている。会場費や審査員への謝金など運営費は充分ではない。台風などで日程変更となった場合は大変なので、公的補助があると助かる。現状が持続可能な状態とは言えない。
- 学校現場では30代～40代の教員の割合が高く、子育て世代が多い。部活動指導を頑張っている教員は、家庭への負担が大きい。地域移行の理念には「働き方改革」も含まれるはず。議論の中で、「働き方改革」がなくなるのは避けてもらいたい。兼職兼業については、希望し兼務をする教員が職場や他の教員等に負い目を感じることなく、気持ち良く地域クラブに携われる環境が大切だと考える。

(2) 令和7年度学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会の進め方について

- 和歌山県では、令和8年度に改革準備期間を終え、令和9年度からは地域クラブの充実を実行していく方針になっている。令和5年度から比べると国からの情報も更新されており、改めて、各団体の視点で部活動を地域に展開することで考えられる具体的な課題をあげてほしい。
- スポーツ少年団の指導者が、中学生を指導するのが現実的で良いと考える。部活動を指導している教員にもいろいろな思いがあると思うので、相互に理解が必要。
- 公民館でどのような活動がされているか十分把握できていない。公民館で中学生が実際どう活動していけるか調査し、課題を明らかにして、公民館のサークル活動が貢献できないかと考える。
- すべての部活動が同じ形で地域展開するのは難しい。競技ごとに考えるべきである。
- 少子化のスピードを考えると単独の自治体だけで運営しては持続可能とまらない。今後、他の自治体との連携を考えるが、かなり広域となるため難しい。
- スポーツ推進委員の集まりや、スポーツの現場でも「地域展開」の話が出ない。実際の地域スポーツの現場へは情報が届いていないと感じる。今回の会議

の内容もそうだが、部活動の地域連携・地域移行について、関係する可能性のある人たちに情報が行き届き、議論や取組が行われるよう、情報発信についても検討してもらいたい。

- 第2回の協議会では、今回出していただいた課題も含めて、各団体の視点で具体的な課題を検討していただき、それらをもとに協議していただくことで、課題解決に向けた具体的な手立てを検討したい。